

■ ごあいさつ

社会価値創造企業へ



株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

当社は昭和32年12月の創立以来、高度化、多様化する社会のニーズに対応するため、事業の多様化、組織の変革・拡大を図りながら知的サービスを提供してまいりました。そして、令和4年12月に創立65周年という節目を迎えることができました。これも、お客様である国民や発注者の皆様、株主、役職員やご家族の方々、諸先輩の方々等、多くの関係者からのご支援、ご指導、ご鞭撻によるものと深く感謝申し上げます。

創立より60年以上にわたり、私たちは社会インフラ整備に関わる企業として、「安全、安心、快適、活力」という価値を提供してまいりました。そして、さらに魅力ある社会や持続可能な社会を創造するため、2030年ビジョンとして「社会価値創造企業」を掲げました。

私たちは、「革新」と「変革」と「挑戦」をキーワードに、これからも国や地域とのより高い信頼関係を築き、「社会価値創造企業」を目指してまいります。

■ 国内主要事業所

- 支社
- 営業事業所



※2014年10月に、海外事業を担うGC事業本部をグループ会社

■ 事業の多様化と組織の変革・拡大

1957年12月24日 創業
PC構造物の

1965年6月
構造に加え、道路分野、

1972年5月
技術開発室設置

1974年4月
海外事業室設置

1978年4月
特定プロジェクト室設置

2006年8月
純粋持株会社の
株式会社ACKグループ設立
(OCは、ACKグループの基幹企業)

2008年8月
株式会社パシフィックコンサルタンツイン
海外事業の譲受け

2010年10月
総合マネジメント事業部設置
(事業領域の拡大)

2013年3月
子会社 株式会社オリエンタル群馬設立
(事業経営の推進)

2013年11月
株式会社ジェーエステックを子会社化

2014年4月
子会社 株式会社トータルフリートサービス
(事業経営の推進)

■ 経営理念 (MISSION) ~ 私たちの使命 ~

私たちは、社員満足、顧客満足、社会貢献を追求することで、
真に魅力ある企業を実現します。

- ・ 全社員の物心両面の豊かさを追求する (社員満足)
- ・ お客様に最高の総合的・知的サービスを提供する (顧客満足)
- ・ 世界の人々の豊かなくらしと夢の創造の実現に貢献する (社会貢献)

■ 経営姿勢 (VALUE) ~ 私たちの経営の考え方 ~

私たちは、真に魅力ある企業の実現のために、
経営にあたって以下の4つの考え方を大切にします。

- ・ 顧客や社会から信頼される企業になる
- ・ 個の成長、企業の成長、豊かさの実感の好循環を生み出し、情熱とやりがいを醸成する
- ・ 好循環を生むために、適切な利益を追求する
- ・ 役職員一人ひとりが主役となる全員経営の推進、経営基盤の強化を行う

■ 行動指針 (BEHAVIOR) ~ 私たちの行動の規範 ~

私たちは、全員経営の推進により、自らが成長するとともに、
仲間のため、顧客のため、社会のために貢献します。

当事者意識を持つ

役職員一人ひとりが経営理念の遂行に責任があることを自覚する。

チームワークをもって協働する

役職員相互がコミュニケーションを充実し、仲間を尊重し、協働する。

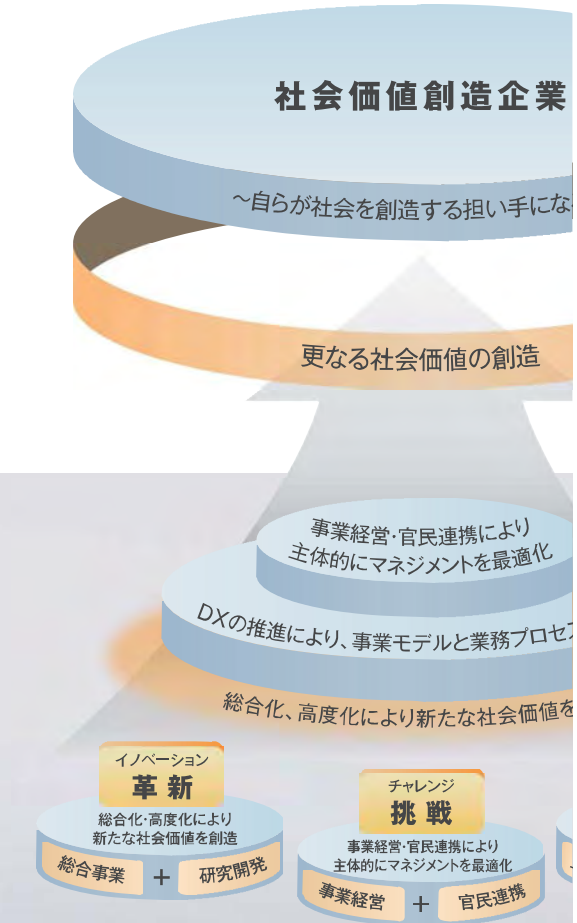
自主・自律の精神で最善を尽くす

役職員一人ひとりが革新と変革、挑戦の気質を持ち、自己研鑽に努め、



■ 2030年ビジョン

日本トップブランドの技術により、
~「全員経営」と「情熱とやりがい」~



■ 我が社が目指すDX (デジタルトランスフォーメーション)

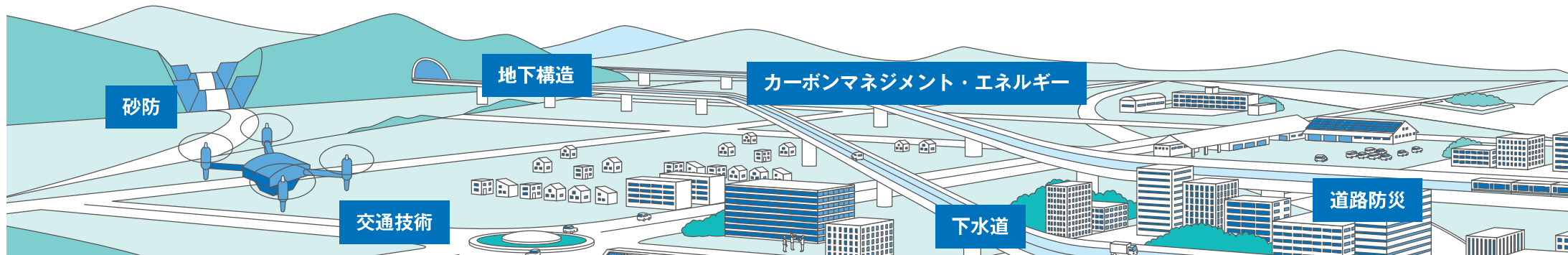
DXにより更なる顧客満足、社員満足を実現

■ 事業分野

オリエンタルコンサルタンツは、幅広い分野に事業を拡大し、「社会価値創造企業」を目指します。

道路整備・保全事業	道路	道路連絡施設設計 民間スマートIC・ラウンドアバウト 地域高規格道路設計	ラウンドアバウト設計 PAI連絡スマートIC設計 電線共同溝PPP事業	BIM/CIMを活用した道路設計 ICT施工 事業推進PPPによる道路事業監理	道路防災事業 UAVレーザを活用した検討 震災復興事業	地震被災道路の復旧 道の駅 地震災害対策検討	▶ p10	
	構造／保全	海洋架橋の計画・設計・維持管理計画 都市内高速道路高架橋の計画・設計 日本の大動脈となる高速道路高架橋の計画・設計	高層地域での「100年橋梁」の実現 海洋架橋の計画・設計 河川橋梁の計画・設計	自然を守る橋梁の計画・設計 復興を支える橋の計画・設計 構造物デザイン	河川橋梁の耐震補強設計 大規模修繕 熊本地震に耐えた橋の計画・設計	実験・解析 土木遺産の再生	▶ p12	
	地下構造	海底トンネル設計 山岳トンネル設計 非常警報設備	避難施設計画・設計 トンネル防災設備 CIMの活用（山岳トンネル計画・施工支援）	トンネル維持管理				▶ p14
	施設設備	インフラ設備 河川施設 無線通信施設・河川施設・道路施設	道路施設 無線通信施設・河川施設・ダム施設 都市空間施設	無線通信施設 トンネル施設				▶ p16
	アセットマネジメント	インフラマネジメント支援システム【橋梁版】 インフラマネジメント（橋梁） 公共施設管理DX	インフラマネジメント（空港） 公共施設マネジメント インフラマネジメント（道路）	維持管理計画の策定支援				▶ p15
流域管理・保全事業	河川・海岸	災害復旧 親水空間創出 かわまちづくり	河川護岸整備 付替え河道の整備 災害復旧	河川管理CIM 健全度調査 調整池護岸整備	河川管理施設整備総合CIM 長寿命化 動的耐震解析	維持管理	▶ p20	
	港湾・漁港	岸壁設計 災害復旧 防災船着場設計	防潮胸壁設計 棧橋設計 付帯施設設計	陸間設計 高潮シミュレーション 漁港計画	護岸設計 維持管理		▶ p22	
	砂防	災害復旧 斜面崩壊対策 CIMの活用	AIの活用					▶ p24
	下水道	耐震対策 浸水対策 構造解析	長寿命化 下水道計画 老朽化調査・診断	ストックマネジメント計画				▶ p25
防災事業	道路防災	防災啓発 リスク評価 防災拠点整備	啓開計画 事業推進PPP 教育・訓練	地震被害軽減工法の開発			▶ p28	
	水防災	津波避難施設 津波シミュレーション 耐震性能照査	ハザードマップ 水災害に対するスマート防災 リスク評価				▶ p29	
	都市・地域防災	避難行動計画 国土強靱化地域計画・地域防災計画 リスク分析	事業継続計画 リスクコミュニケーション 教育・訓練	防災行政対応			▶ p30	

交通運輸事業	交通技術
地方創生事業	交通政策
地域経営推進事業	都市政策・都市開発・建築
海外事業	景観・ランドスケープ／ 歴史・文化
	観光
	環境
	カーボンマネジメント・ エネルギー
	総合事業・事業経営
	海外



社会・経済を支える道路インフラを創る・守る

～社会インフラの整備・保全をDXの推進による変革を踏まえ、高度技術と全体マネジメントで最適化～

社会構造の変化に合わせて持続的な社会・経済活動を支えるために、道路インフラの整備は今後も欠かせません。

一方で、高度経済成長期に建設された多くの社会インフラが老朽化するなか、既存ストックの有効活用と維持管理・更新を計画的に実施私たちは、国内外で数々の表彰を受けるなど、これまでに培ったナンバーワン・オンリーワンの技術やマネジメント力を駆使し、DXへの変革

し、社会インフラを保全していかなければなりません。
も念頭に、社会インフラの整備・保全事業に総合的に継



道路

交通計画、橋梁、地下構造、景観、環境、防災などの多角的な視点から、地域のニーズに即した検討を行い、すべての利用者にとって「安全」「安心」「快適」な道路空間の計画・設計を行なっています。

道路連絡施設設計

大橋JCTの計画・設計及び交通運用検討

都心部のコンパクトなジャンクションにおいて、路面標示や案内看板を色・デザインで統一することを提案するなど、安全な走行空間を構築するための計画・設計を行いました。



民間スマートIC・ラウンドアバウト

VISON多気(日本最大級の商業施設)

地方創生の大規模民間プロジェクトとして、2021.7に三重県多気町にグランドオープンした「VISON多気」に基本計画の段階から主幹企業として関わりました。公共インフラと融合させた新しい民間開発事業として、民間施設直結スマートIC、施設内公共道路整備とラウンドアバウト導入、国道改築、駐車場配置計画など、インフラ整備全般に関するコンサルティングを行いました。



ラウンドアバウト設計

須坂市RAB予備設計、詳細設計

道路交通法の改正後、本格運用された日本初のラウンドアバウトの設計を実施しました。他の地域においても、地元への交通ルールを含めた説明会や関係機関協議・調整などの取り組み、導入検討、調査・分析、社会実験、計画・設計、施工計画など、実施しています。



PA連結スマートIC設計

遠州森町スマートIC設計

新東名高速道路遠州森町PAにおけるスマートICの導入に伴い、スマートIC及び周辺町道の計画・設計、周辺道路の案内検討を実施しました。



BIM/CIMを活用した道路設計

東紀州地区道路設計

道路予備設計において、BIM/CIMを導入した設計を行い、数量の自動算出や構造物設計との整合確認など、3次元データを活用した道路設計を実施しました。



PA連結スマートIC設計

由布岳PAスマートIC設計

大分自動車道由布岳PAにおけるスマートIC導入に伴い、道路・構造物詳細設計の実施、段階施工ステップを検討しました。



ICT施工

BIM/CIMによるICT土工導入促進支援

BIM/CIMを活用した道路設計

名護東道路(数久田地区)道路予備修正設計業務

屈曲した道路線形に対し、BIM/CIMの導入による3次元モデルを作成することで、信号や案内標識の視認性を視覚的に検証し、安全性に優れた道路設計を実施しました。



事業推進PPPによる道路事業監理

三陸沿岸道路事業監理業務

官民連携の新たな試みである、事業推進PPP手法による道路事業監理業務を受注し、意欲的に活動を展開しています。



構造（橋梁・特殊構造・解析実験）／保全（点検、補修補強設計）

ニーズが多様化している現代、橋にも「美しさ」、「低環境負荷」、「低ライフサイクルコスト」等、様々な機能が要求されています。

これらのニーズに応えるため、積極的に新たな技術・工法・手法を用い、次の世代に残る橋の計画・設計を行っています。

海洋架橋の計画・設計・維持管理計画

新湊大橋

国際拠点港湾伏木富山港の臨港道路における景観検討及び複合斜張橋のPC側径間、接合桁等の詳細設計を実施しました。（平成24年度土木学会田中賞受賞、照明学会照明普及賞受賞、土木学会デザイン賞2015奨励賞受賞）。



都市内高速道路高架橋の計画・設計

横浜港北ジャンクション高架橋

首都高速横浜北西線および横浜北線、第三京浜道路を結ぶ多層構造のジャンクションのうち、連結路及びランプ橋の設計を実施しました（令和元年度土木学会田中賞受賞）。



高塩害地域の『100年橋梁』の実現

数久田ICオンランプ橋

一般国道58号名護東道路の全線開通の最終橋梁を、設計コンセプト・ポリシーと最新技術を駆使し、高塩害地域の『100年橋梁』を計画・設計しました（令和3年度全日本建設技術協会 全建賞受賞）。



海洋架橋の計画・設計

小名浜マリナブリッジ

福島県いわき市小名浜港に建設された橋長927mの臨港道路橋です。航路上をまたぐ、5径間連続PCエクストラードード橋であり、臨港道路橋として日本で初めて採用した形式です。小名浜港および周辺地区のランドマークとなっています。（平成29年度土木学会田中賞受賞、平成30年度PC工学会賞作品賞受賞、2019年日本コンクリート工学会賞作品賞受賞）。



河川橋梁の計画・設計

由利橋（由利タワー）

秋田県由利本荘市を流れる子吉川に架かる由利橋の架替え事業であり、鋼2径間連続斜張橋を計画・設計しました。



自然を守る橋梁の計画・設計

紀勢宮川橋

ダブルワーレン形状の採用により、周囲の景観と調和がとれた機能美を有するトラス橋としました（平成17年度土木学会田中賞受賞）。



自然を守る橋梁の計画・設計

復興を支える橋の計画・設計

陸前高田ベルトコンベア橋

『奇跡の一本松』（写真右手奥）とともに復興のシンボルとなったベルトコンベア橋『希望のかけ橋』を計画・設計しました。



自然を守る橋梁の計画・設計

七色高架橋

雄大な自然に恵まれた地区の橋梁を踏まえ、高強度材料の採用による地形改変を最小限化し、環境保全に配慮した橋梁設計をしました（平成17年度土木学会田中賞受賞、全日本建設技術協会全建賞受賞）。



復興

普及

復興

位置

コン

弱

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

機能

地下構造(トンネル・地下道・地下駐車場・地下空間・特殊構造・解析実験)

トンネルや地下構造物は、地上空間の環境保全や土地の有効活用に大きく貢献しています。当社は、トンネル本体・設備の計画から維持管理、補修・補強まで一貫した多くのトンネル技術(山岳トンネル、開削トンネル、シールドトンネル、沈埋トンネルなど)を提供しています。



山岳トンネル設計

栗子トンネル

福島・山形両県境に位置する延長約9kmの長大トンネルを設計しました。無料道路では日本最長、全道路トンネルでも東京湾アクアトンネルに次いで5番目に長いトンネルです。



避難施設計画・設計

横浜環状北線・北九線避難施設設計

閉鎖された空間であるトンネル内で火災が発生した場合に甚大な被害が生じる恐れがあるため、避難施設を設置します。当社は、避難施設を構成する避難扉、すべり台構造、階段構造等について実証実験を含めた設計サービスを提供し、安全安心な地下空間の利用に貢献します。



トンネル設備

海底トンネル設計

海の森トンネル(沈埋トンネル・東京港臨港道路南北線事業)

海の森トンネル(東京港臨港道路南北線整備事業)は、有明10号地と中央防波堤外側地区を結ぶトンネルである。当社は海の森トンネルの海底部分となる沈埋トンネル約930mの設計を実施した。構造は制作期間が短い鋼殻内部にコンクリートを充填するフルサンドイッチ工法が採用され、函の長さは国内最長となる134mとなる。フルサンドイッチ工法とは、函体外面・内面のすべてを鋼殻で制作し、この部材間にコンクリートを打設して一体にする方法で、制作ドックで鋼殻を組立て、海上に運搬し、コンクリート打設を行うことで、同時に後続函の鋼殻の組立てが可能となる。沈埋工法を採用した。(日建連「技術省」を受賞)沈埋トンネルは、国内で30事例ほどあり、直近では約10年前の「那覇港臨港道路(沖縄県)」「新若戸道路(北九州市)」「大阪夢咲トンネル(大阪市)」となるが、すべてにオリエンタルの設計技術が用いられている。

CIMの活用(山岳トンネル計画・施工支援)

名塩道路城山トンネル他詳細修正設計業務

ICT(3次元測量、BIM/CIM)の高度利用により、ECI事業における関係者間の情報共有を迅速化し、技術提案・設計デザインの精度向上、対外協議の円滑化をはかりました(令和元年度 i-Construction大賞優秀賞受賞)。



アセットマネジメント(保全・維持管理)

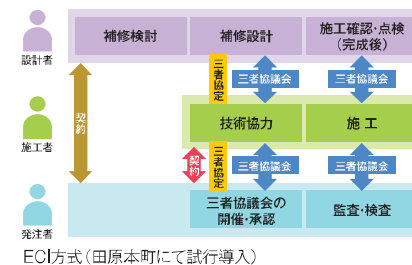
人口減少、財源不足、施設の老朽化等の環境変化やデジタル社会資本全体を包括的に維持・保全し、価値を高めるため



インフラマネジメント(橋梁)

自治体向けECI事業

奈良県田原本町にて、全国初の自治体向けECI方式による橋りょう保全事業を試行しました。試行の結果、工期短縮、品質向上、発注者負担の軽減効果を確認できました。



インフラ

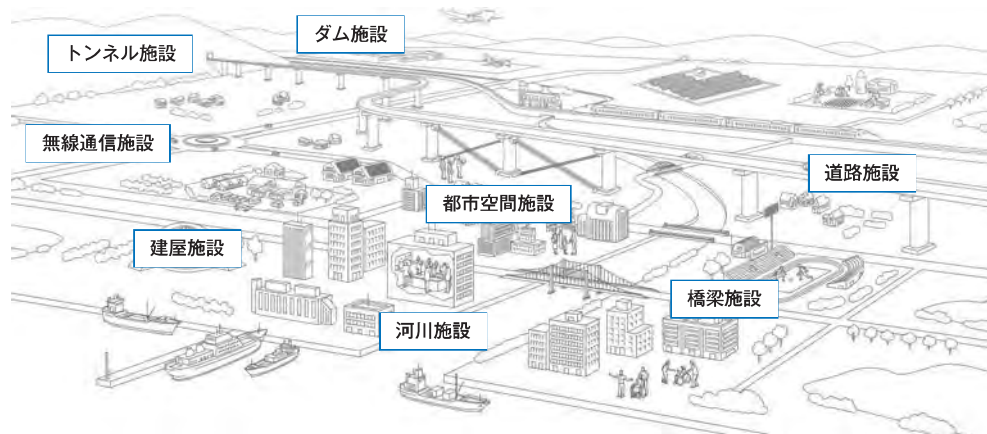
空間

南信 活用 全 向け

施設設備（電気・通信・機械）

インフラを活かすためには、電気・通信・機械等の設備が必要不可欠です。

当社は、道路・トンネルの設備（照明、警報、換気等）からダム等の制御設備など、あらゆるインフラの設備計画、設計に関する技術を提供しています。



河川施設

CCTV設備

河川の水位や状況などをリアルタイムでモニタリングし、迅速な防災情報を提供するのにも公共インフラ設備の役割です。



道路施設

道路情報板設備

災害時等における道路状況を正確・迅速に道路利用者へ提供し、二次災害の防止を図るとともに安全かつ円滑な交通を確保する役割があります。



インフラ設備

設備配置計画

当社が手掛ける様々な公共施設に対し、設備配置計画から設備設計まで、幅広くサービスを提供しています。土木構造物や建築物など、利用するためには照明が必要です。その他、快適に利用するためには利用者への情報提供が必要です。また、CCTV設備、防災設備、換気設備等により、安全安心を提供します。このように、設備配置計画は土木構造物および建築物などに命を吹き込むための作業になります。

都市空間施設

照明、換気、消火設備

地下歩道や地下駐車場など、都市では地下空間の有効利用が進められています。これらが運用されるためには、照明や消防設備などの公共インフラ設備が必要不可欠です。



トンネル施設

トンネル自動照明設計プログラムの開発

設計の省力化・品質確保を目的に、トンネル照明自動設計の一連の設計プロセスを自動化した設計支援システム

INPUT

トンネル条件

項目	記号	内容	単位
トンネル名称		〇〇トンネル	
計画区間		0.000	km
トンネル延長		1000	m
車道幅員	W		m
交通方式		対面通行	
設計速度	V	50	km/h
交通量による1/2断面		あり	
下り断面傾度	L	0.05	od/m2
基本照明配列	N	千鳥配列	
安全率	M	0.65	
舗装種類		コンクリート舗装	
起点断面外縁高		2500	od/m2
終点断面外縁高		2500	od/m2
入口照明		誘光板	2段設置
非常照明器具形式		アルミ線形	
蓄電装置		あり	
警報灯設置		なし	

光源仕様計算入力データ
入力条件 照度計 色パターンの選択

器具取付	上照
位置	両側
全幅員	
車道幅員	
器具種類	線形
器具形状	直線
器具色	白色
歩道幅員	
歩道外	線形
器具形状	直線
器具色	白色
器具取付高さ	
器具取付位置	
器具取付高さ	
器具取付位置	

港湾・漁港

津波や高潮・高波等の自然災害から国・地域を守るため、各種施設の計画・設計から維持管理までのあらゆるプロセスで技術を提供しています。

また、その対象も商港、工業港、旅客港、漁港など多岐に渡り、それぞれの特性に応じた技術を提供しています。



岸壁設計

横浜港新港ふ頭9号岸壁

横浜港の新港ふ頭9号岸壁は、レベル2地震動に対応する耐震強化岸壁であり、かつ、クルーズ船の着岸も可能となるように改良設計を行いました。施工期間が限られているため、本体工はジャケット式栈橋を、上部工はPC桁を採用して、工期を大幅に短縮可能な設計としました。現在は、ジャケット式栈橋の据え付けが完了し、上部工の据え付けを行っています。

栈橋設計

リアスハーバー宮古

東日本大震災で被災したリアスハーバー宮古の浮栈橋の災害復旧工事です。栈橋本体は、アルミ製の本体とフロートから構成されるセパレートタイプを採用しました。



災害復旧

東日本大震災石巻港等港湾復旧事業

東日本大震災直後より、岩手県・宮城県・福島県における港湾・漁港・海岸施設の災害査定業務、復旧設計業務を実施しました。



防潮胸壁設計

神戸防潮胸壁設計

プロムナードとして利用され開放的な空間であることを考慮して、「アクリル+コンクリート壁」を採用し、周辺の景観に配慮した防潮胸壁の設計を行いました。



栈橋設計

勝本港浮栈橋設計

漁業者の高齢化による漁業活動の効率化と係留施設の老朽化による更新の時期にあわせて、安全な漁船の乗入れが可能となるよう、潮位変動に対応する浮栈橋の設計を行いました。



陸閘設計

妻良漁港陸閘設計

静岡県妻良漁港では、南海トラフ巨大地震津波に備えるため、漁港内に防潮堤と陸閘を設計しました。この陸閘は景観にも配慮しています。



栈橋

明石

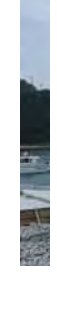
兵庫



栈橋

大宮

岡



砂防

砂防事業では、土砂災害から住民の安全を確保するために、周辺環境へ配慮しながらソフト対策やハード対策を実施しています。施設整備では、耐久性や維持管理性、景観・環境性などに配慮した計画・設計を行うと共に、長寿命化等にも取り組んでいます。



災害復旧

紀伊山系特定緊急砂防事業

平成23年9月の台風12号（紀伊半島大水害）により発生した土砂災害対策として、那智川の土石流対策施設の計画・設計を行いました。



災害復旧

深沢砂防激甚災害対策特別緊急堰堤事業

平成23年7月新潟・福島豪雨により発生した土石流の対策として、重力式コンクリート砂防堰堤を設計しました。



災害復旧

耕英東地区砂防激甚対策特別緊急事業

平成20年6月の岩手・宮城内陸地震では、大規模な地すべりを引き金として土石流が発生し、多くの人命がなくなりました。土石流は溪流の中で約20mの厚さで堆積しましたが、この堆積物が地震や大雨で流出すると、再び土石流が発生する恐れがありました。この土石流堆積物の流出対策として、砂防堰堤を計画しました。砂防堰堤は、崩積土の上部に構築したことから、長期的な地盤変位に追従できるブロック式砂防堰堤としました。

災害復旧

芹沢地区緊急砂防事業

平成27年9月関東・東北豪雨により発生した土石流の対策として、砂防堰堤・流末処理工の計画設計を行いました。



AIの活用

下水道

良好かつ適正な下水道サービスを創出するために、下水；また、流域治水対策・国土強靱化計画等を踏まえ、浸水対



浸水対策

雨水流出抑制対策の設計・検討

近年の集中豪雨や新規造成、道路整備に起因する都市型の浸水被害を防除、削減するため、雨水流出抑制対策（雨水貯留施設や雨水浸透施設の設置・設計・検討）を全国各地で行っています。



断面図 S=1:100

構造解析

非線形解析を用いた耐震診断

長

下

国を
を
槽、
な
実



ソフト・ハードの両面で社会・地域を災害から守る

～DXの活用により、国土・地域の強靱化を実現～

毎年のように発生する豪雨や台風、また希にしか発生しない地震や津波などの様々な自然災害により、人命や財産に甚大な被害をもたらしています。私たちは、平常時のソフト対策とハード対策による「事前防災」や「防災教育・防災訓練」、発災直前・発災時の「応急対応」、発災後の「復旧・復興」をDXにより途切れることなくこれらの対応を一連で展開し、国土や地域の強靱化に向けた取り組みを進めてまいります。

ています。
旧・復興を



自由な移動、にぎわい・活力、安全・安心な社会の実現

～政策立案と進化する高度技術を通じて交通まちづくりを実践～

社会・地域に実装する交通政策を総合的に立案し、進化する高度技術を駆使して実現を図り、

人・モノの移動を支え、安全・安心かつ賑わい・活力を生み出す「交通まちづくり」の推進、地域の課題解決および地域価値の向上の取り組み

を進めています。



全国どこでも誰もが快適に暮らせる社会の実現

～DXの推進と多様な連携の促進による地域マネジメントの実践～

全国各地の都市・地域では、人口減少・高齢化が進んでおり、関係人口の増加や産業振興・雇用の創出等、地域課題の解決が求められています。また、地球規模での気候変動が深刻化する中、環境保全・脱炭素化に向けた取組を加速化する必要があります。

私たちは、「全国どこでも誰もが快適に暮らせる社会」の実現に向け、DXの推進と多様な連携の促進による地域マネジメントを実践してま

ます。

います。



地域拠点におけるエリアマネジメントの 実践

～コンサルティングと事業経営の両面から地域を活性化～

ポストコロナ時代、多くの地域において、地域特有の資源や環境を活用した魅力・個性あるまちづくりに向けた取組は加速しています。

私たちは、地域のまちづくりに関するコンサルティングと、地域拠点における事業経営の担い手の両面から地域の活性化に貢献してまいります。



オリエンタルコンサルタンツグローバルと共に海外事業

～国内で培った技術力・マネジメント力を活用し、海外に展開～

ナイル川はウガンダに位置するビクトリア湖がその源流です。ジンジャ橋新設事業は、そのビクトリア湖から始まるナイル川の源流近くに建

オリエンタルコンサルタンツは国内で培った高度な専門技術力とマネジメント力を発揮してこの橋の建設に貢献しました。

私たちは、この事業の完成に貢献するにとどまらず、国内で培った高度な専門技術力とマネジメント力を発揮して、多くの国家的プロジェクトに取り組み、総合力で貢献してまいります。

設されたアフリカ最大級の斜張橋で、ケニアのモンバサ

トに取り組み、総合力で貢献してまいります。

